



日赤なごや



Vol. 78

Autumn
2022

- **Medical Frontier**
感染制御部長兼第一呼吸器内科副部長
伊藤 亮太 医師
- **リハビリ見聞録!**
運動強度はどれくらい?
- **Professional Style**
NICU/GCU
木全 美智代 看護師長



お知らせ

- 人間ドックって何? ~健康について考えてみませんか~ 健診部 部長 渡邊 保子
- 第23回なかむら学術セミナー

Medical Frontier

メディカル フロンティア

最前線医療レポート Vol.70

感染制御部長 兼
第一呼吸器内科副部長
日本感染症学会感染症専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医

いとう りょうた
伊藤 亮太 医師



院内で起こる感染症を抑え込み、 専門的に治療する感染制御部ができました。

耐性菌の制御は 世界での喫緊の課題です。

感染症は、細菌やウイルス、カビ、寄生虫などが体内に侵入し、害を及ぼす病気です。脳や髄膜、肺、胆管、尿路、血液など、体の至るところで起こります。

近年は、COVID-19などの新興感染症や多剤耐性菌の拡大などが進んでいます。2013年に「耐性菌の対策を取らない場合、2050年に世界における耐性菌による死亡者数が1,000万人を超える（現在のがんでの死亡者数を超える）」という試算が発表されました。（図表オニールレポート参照）そのため、耐性菌を制御することは、世界的にも喫緊の課題となっています。

当院ではこれまでも、医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師など複数の職種による院内感染防止対策チーム（ICT）を設け、感染防止に努めてきました。

今春より、感染症専門医と感染管理認定看護師、内科系／外科系医師を軸とした「感染制御部」を新たに設立され、これまで以上に安心・安全な医療の体制づくりに努めています。

感染制御部の主な役割は、院内感染症対策と抗菌薬適正使用です。

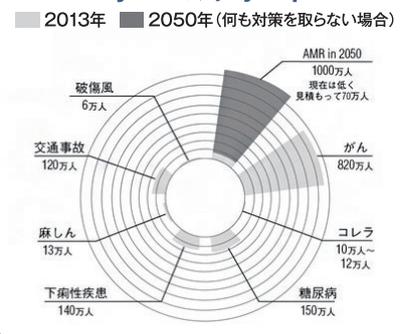
耐性菌は、抗菌薬（抗生剤）に抵抗力をもつ細菌です。その中でも、多剤耐性菌は多数の抗生剤が効かなくなった細菌で、感染すると、有効な抗菌薬が少なく、治療に難渋します。

院内の耐性菌を早期のうちに抑え込むのがICTの仕事です。耐性菌の動向を調査監視して、最善策をとって

対応をしています。

抗菌薬は、細菌に対しては有効ですが、風邪などのウイルス性感染症には効きません。私たちの体内には細菌と呼ばれるような良い働きをする菌がいます。抗菌薬を乱用してしまうと、不必要に善玉菌を殺してしまい、耐性菌を増やすきっかけとなってしまいます。そのためAST（抗菌薬適正使用支援チーム）は各科と連携し、適切な感染症診療ができるように様々な啓発活動を行っています。

図表 薬剤耐性（AMR）に起因する死亡者数の推移
オニールレポート



感染症の治療には、病原体の解明を含めた的確な診断が必要です。

抗生剤治療が効かない感染症や原因不明の発熱など、主治医の要請にもとづいて感染症専門医として診療を行っています。また、血液培養検査※1に陽性反応（菌血症）が見られれば、早期治療の推奨や菌種にあった抗菌薬を提案しています。

感染症は、どの診療科にとっても関わりの深いものですが、系統的に学ぶ機会実は多くありません。感染症の専門医は全国的にも少なく、認定者※2は1,690名。感染制御認定薬剤師や

看護師も同様で、専門知識の底上げが必要な分野です。

現在は、初期研修医に向けたコアレクチャー（感染症の講義）を行っています。今後は、全スタッフを対象に、職域ごとに必要な知識を伝える機会を設けていきたいと考えています。

専門医だからこそ実践できる 感染症対策を進めます。

当院血液内科でも造血幹細胞移植後のワクチン外来が行われていますが、脾臓摘出患者さんなどの免疫が低下した患者さんに対してのワクチン接種は、日本全体でも整備が不十分な分野です。海外で推奨されているワクチンの接種を行うことができ、ワクチン外来のような窓口をつくれば、より良い医療を多くの患者さんに届けることができます。

感染制御部は4月に発足したばかりで活動も手探りですが、専門の人材を育て、しくみをつくり、環境を整えていくことで、感染症で苦しむ患者さんを減らしていきたいと考えています。



※1 血液中に細菌が存在するかどうかを確認する検査 ※2 日本感染症学会 2022年7月1日現在



妊娠や出産だけでなく、女性の一生に寄り添い支援するのが私たちの仕事です。

新しい命の誕生を 全力で支える毎日です。

助産師として約30年、これまで多くの妊産褥婦にんさんじょくふさんと赤ちゃんのケアに携わってきました。近年は、晩婚化による高齢出産など、様々なリスクを抱えた妊産褥婦さんが増えており、求められる医療の質や形も高度化・多様化しています。

総合周産期母子医療センターは、産科と新生児科の最先端医療を融合させた施設です。MFICU(母体・胎児集中治療室)やNICU(新生児集中治療室)、GCU(回復治療室)を備え、24時間体制で母子の健康を支えています。

NICU/GCUは早産の赤ちゃんや低出生体重児、先天的な病気をもつ赤ちゃんなどの呼吸や循環を助け、集中的に治療・管理をする部門です。お母さんのお腹の中と同じ環境を整えて、体調を管理しながら、赤ちゃんの発達をご家族とともに見守ります。

想像と異なる赤ちゃんの様子に大きな不安を抱かれるご家族や、自責の念

にかられるお母さんは少なくありません。そんな時は公認心理師さんなどの力を借りて、少しずつ心をほぐすお手伝いをしています。

赤ちゃんの状態が安定し、すくすく成長してくると、次は退院の準備です。何らかの後遺症がある時や、在宅酸素などの医療ケアが必要な時は、地域の医院や訪問看護ステーション、保健センターなどと連携し、赤ちゃんのご家族のサポーターを増やす手はずを整えます。

複眼的な視点を得るために 母性看護専門看護師になりました。

助産師は、医師以外の医療者のうち、唯一助産行為ができる国家資格です。正常分娩であれば、自らの判断で赤ちゃんを取り上げることができます。そのため、病院における助産師は、妊娠から出産、産後までお母さんと赤ちゃんの命を守り、健康を支えることが主な役割となります。

10年ほど前に、これまでとは異なる

視点と広い視野をもちたいと考え、大学院に進学しました。助産師として妊産褥婦さんと触れ合う中で、一人一人の想いや生活背景を知ることが大切だと実感していたからです。

母性看護は、女性とそのご家族が生涯にわたって健康な生活が送れるように支援することです。基礎疾患のある方や多胎、若年妊娠など、複雑で解決の難しい問題を抱える方に対して、より適切な看護支援を行うとともに、一緒に働く看護師や助産師からの相談に応じたり、話し合いの場を設けたりするなど、チーム医療を支える役割を担います。

新しい命の誕生は予期せぬことも多く、もどかしい思いをすることもありますが、妊産褥婦さん一人一人のその先の人生を見据え、今何ができるかを考えることが大事です。

どんなご事情があったとしても、母子とご家族の幸せな未来へとつなげるために、私たちは全力で妊産褥婦さんをお支えしていきます。

リハビリ 見聞録!

第3回 運動強度はどれくらい?

誰もが運動の必要性は認識しているものの、いざ運動しようと思うと、どれくらいの運動がよいのか分かりにくいですよね。適切な運動量は、性別・年齢・運動経験・健康状態など人によって異なりますし、目的によっても異なります。運動量を設定する上では、「運動時間・強度・頻度」が目安となりますが、今回は運動強度について少しお話しします。

運動強度をチェックする客観的で最も簡単な方法は心拍数(脈拍)ですが、ご高齢の方には難しいかもしれませんので、主観的な運動強度についてお話しします。

主観的な運動強度は自覚的運動強度と言われ、運動がどれほどきついかといった自分の感覚で判断します。

「非常に楽である～非常にきつい」と感じる運動の中で、「楽である」と感じる運動から「ややきつい」と感じる程度の運動が、安全に行えて生活習慣病の予防などの効果が得られる

運動強度とされています。「きつい～かなりきつい」と感じる強度の運動は、生活習慣病の患者さんなどでは避けた方が良くとされています。また、健康の維持向上のための運動強度は、「おしゃべりをしながら運動ができ、汗ばむ程度が良い」と表現されているものもあります。

一般的には、「楽な運動」がウォーキングやヨガ、「少しきつい運動」が速歩きや階段昇降といったところになるかと思いますが、はじめに書いたように、これは、人によって異なります。その日の体調や、その時の精神状態などによっても異なることがあると思いますので、無理のない範囲での運動を心掛けてください。



お知らせ



人間ドックって何？

～健康について考えてみませんか～

人間ドックの「ドック」は、船を点検・修理するための施設「dock(ドック)」が由来です。船が長い航海のあと点検・修理のためにドックに入るように、人間を船に見立て、短期入院の健康診断のことを「人間ドック」というようになりました。日本人間ドック学会は、「糖尿病・高血圧・高脂血症等の生活習慣病や、がんなどの病気を早期発見し、治療に結び付けるために必要なのが人間ドック」としており、人間ドックとは、今話題の予防医学そのもののなのです。

コロナウイルスの流行で、医療機関の受診控えや、感染リスクを考えて、人間ドックや健康診断を受けることをためらってしまう方も多いのではないのでしょうか？病院に行く機会を逃すことは、疾病の早期発見・早期治療の機会を逃してしまうことにつながります。

当院の健康管理センターは、『日本人間ドック学会』や『日本脳ドック学会』の認定評価を受け、安心・安全で

質の高い健康診断を提供している健診施設です。

肺・胃・大腸などの検査を含む半日で終わる基本的ドックの他に、全身がん検査のPETドック、脳ドック、その他のオプションも充実しております。また、企業や健康保険組合との契約で職場健診を含む人間ドックも行っています。どんな検査を受けたいの？という方は、お気軽にご相談ください。あなたに合ったコースをご紹介します。

健診当日は、医師による結果説明、保健師や管理栄養士による栄養相談があり、当日または後日に各専門外来への紹介など、検査だけでなく、フォローアップにも力を入れています。

長引くコロナ禍で、こころやからだに不調や変化はできていませんか？健康維持が難しい昨今ですが、今一度、ご自身やご家族の健康について考えてみませんか？

健診部 部長 渡邊 保子



第23回なかむら学術セミナー

令和4年8月6日(土)16:30から名古屋観光ホテルにて、「第23回なかむら学術セミナー」を開催いたしました。

本セミナーは、平成11年10月23日に「第1回名古屋第一赤十字病院病診連携システム学術セミナー」として始まったもので、以後、年1回登録医の皆様にご参加いただき、時代に即したテーマで、院内・院外の先生方にご講演をお願いしてきました。平成28年(第18回)からは、「なかむら学術セミナー」に名称変更し、現在に至っています。

今年度も昨年度に引き続き、参集およびWEBでのハイブリッド形式で、中村区・西区・中川区・中区・北区・海部の各医師会様、ならびに大塚製薬株式会社様との共催で有意義なセミナーとすることができました。

今回のテーマは「心不全について」で、院外から41名が参加され、当院からは20名が参加しました。

最初の2題は当院医師の講演で、「マイトラクリップによる

心不全治療」と題して心臓血管外科第一部副部長の細羽創宇医師が、「リードレスペースメーカーについて」と題して第二循環器内科部副部長兼集中治療部副部長の森下佳洋医師が講演しました。

最後に、「かかりつけ医にできる心不全治療:連携を軸に考えながら」と題して、名古屋市中村区医師会 鬼頭哲太郎先生(クリニックかけはし副院長)にご講演いただきました。

また、今年度もセミナー終了後の情報交換会ができませんでしたので、初めての試みとして、当院の心臓血管外科・循環器内科・脳神経外科・歯科口腔外科のパネルを作成し、参集・WEB参加の皆様にご覧いただけるようにしました。

来年度以降も、引き続き、登録医の先生方のご協力のもと、「なかむら学術セミナー」を開催していきたいと存じます。ご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

地域医療連携課 課長 辛島 禎史

第23回 なかむら学術セミナー

講演 終了後、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より赤十字事業ならびに地域医療連携システムの運営にご協力をお願いし、厚く御礼申し上げます。さて、今年度の学術セミナーも下部の通り開催させていただきました。来社からも積極的にご参加いただき、ご講演の先生方には御礼を兼ねることもできました。つきましては、ご多忙中とは存じますが、先生方はもちろんごメディアカルスタッフの方々もお問い合わせの上、ご来社お待ちしております。

【日時】令和4年8月6日(土) 16:30 ~
 【会場】名古屋観光ホテル2階 禮の間
 名古屋市中区錦1丁目19-30 Ⅱ (052)231-7711
 【開催方法】現地参加+オンライン形式(ZOOM/ウェビナーを使用)

司会 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長 花本 芳洋
 開会挨拶 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 院長 鏡見 尚道
 テーマ:「心不全について」
 【座長】 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長 花本 芳洋
 講演Ⅰ 『マイトラクリップによる心不全治療』
 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 心臓血管外科 副部長 細羽 創宇
 講演Ⅱ 『リードレスペースメーカーについて』
 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 第二循環器内科 副部長 森 真中 治徳部 副部長 森下 佳洋
 講演Ⅲ 『かかりつけ医にできる心不全治療:連携を軸に考えながら』
 名古屋市中村区医師会 クリニックかけはし 副院長 鬼頭 哲太郎先生
 閉会挨拶 名古屋医師会 病診連携システム担当理事 藤部 忠夫先生
 ※ 日本医師会生涯教育講座2単位(コード 42、43)を取得予定です。
 例年開催しております。情報交換会については新型コロナウイルス感染症の情勢を鑑み、開催しません。予めご了承ください。

※ 本講演会が下部の感染対策を行う上で開催します。
 ・入場はマスク着用が必須です。
 ・参加の検温、スタッフのマスク着用。
 ・会場内は20分間隔で換気を行います。
 ・会場内はアルコール消毒液を常備し、最大90%以下の対応を行います。
 【出席者の衛生力】
 会場には参加者の方々に消毒液・ご厚紙のゴミ箱を常備しております。なお、入場された個人情報は運営事務局の職員及び会場のスタッフのみに主観限定的にのみ使用し、その他第三者に提供することはありません。また運営事務局、個別の参加者へも共有いたしません。
 出席者の健康状態は随時チェックいたします。
 出席者の健康状態は随時チェックいたします。ご理解申し上げます。

共催: 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
 中村区医師会、西区医師会、中川区医師会、中央区医師会、北区医師会、海部医師会、大塚製薬株式会社



外来診療担当医表

※担当医は都合により変更になる事がございますのでご了承ください。 2022年10月1日現在

診療科目	月	火	水	木	金	
血液	小澤幸泰	西田徹也	AM西田徹也 PM原玄寛	小澤幸泰	森下喬允	
	後藤辰徳	AM武田健一郎	後藤辰徳	AM内藤知希	石際康平	
	PM石際康平	PM森下喬允	AM土門洋祐	PM武田健一郎	PM西田徹也	
	PM土門洋祐	PM内藤知希	PM福岡翔 内藤知希	—	PM福岡翔	
内分泌	清田篤志	白川晶	尾崎信暁	尾崎信暁	清田篤志	
	武田由季	土田真梨子	—	土田真梨子	太田美穂子	
腎臓	遠藤信英	鈴木彰	清水仁美	平松絵美子	横江優貴	
脳神経	新患	(交代)	(交代)	福野貴仁	第13-5週 三澤尚史 第2-4週 谷本由佳	
	再診	渡邊はづき	近藤隼人	後藤洋二	真野和夫	後藤洋二
循環器	新患	近藤史朗 小出浩史	松井綾香	宮崎茜	黒田真之	足立健太郎
	再診	嶋野祐之 神谷春雄	AM宮本駿 PM岡本遼太郎	AM近藤俊 PM加藤博己	宮田紳治朗	神谷春雄
●第1.3.5金曜日(午後)専門外来						
呼吸器	新患	田中麻里 小玉勇太	高納崇	後藤希 中瀬敦	稲垣雅康 都島悠佑	横山俊彦
	再診	横山俊彦	田中麻里	稲垣雅康	伊藤亮太	小玉勇太
消化器	土居崎正雄	山口丈夫	鷺見肇	山口丈夫	春田純一	
	鷺見肇 PM吉岡直輝	堀田侑義	春田純一 PM丸川高弘	AM上田遼大 PM市川毅留	土居崎正雄	
	AM松本悠平 PM上田遼大	原啓文	藤吉俊尚	AM藤吉俊尚 PM吉岡直輝	丸川高弘	
	川瀬祐	—	三木大地	PM松本悠平	—	
総合診療	宮川慶	—	AM松久貴晴 PM宮川慶	PM榛葉誠	—	
午前	福見大地	濱麻人	大城誠	福見大地	竹内智哉	
	齊藤明子	西門優一	秋田直洋	北澤宏展	三井さやか	
	土屋研人	田中雅大	荒木未希絵	細川博紀	神原紀香	
	大竹輝	水谷謙介	森島宏	—	松本真由子	
アレルギー	—	—	牧野篤司	岩脇由希子	—	
午後(専門外来)	循環器	三井さやか	—	—	福見大地	—
	血液	—	濱麻人	PM土居崎小夜子	吉田奈央	(交代)
	神経	—	—	竹内智哉	田中雅大	夏目淳/(交代)
	腎臓	—	渥美愛 多代篤史	—	—	—
	新生児発達	浅田英之	中山淳	杉山裕一郎	田中亮	大城誠
	予防接種	(交代)	(交代)	—	—	—
	乳児健診	—	—	(交代)	—	(交代)
	小児内分泌	—	—	西門優一	—	西門優一
	アレルギー	牧野篤司	—	—	—	—
	●予防接種・乳児健診は10日前までにご予約ください。詳しくは受付にお問い合わせください。					
一般消化器外科	三宅秀夫	吉岡裕一郎	三宅秀夫	永井英雅	三宅秀夫	
	荒川拓也	柴田耕治	高橋大五郎	加藤麻予	PM永井英雅	
	浅井周平	関本晃裕	河合奈津子 PM日田浩太郎	青木 優大	川合亮佑	
	岩瀬拓士	乳腺初診 (病診予約)	後藤康友	後藤康友	角田伸行	
照屋なつき PM(乳腺再診)	角田伸行	照屋なつき	松本理佐	乳腺初診 乳腺再診		
心臓血管外科	澤木完成	伊藤敏明(新患) 梶山洸	細羽創宇	—	伊藤敏明(新患) 加藤隆	
血管外科	—	山本清人	—	榊原昌志 李昌史	—	
呼吸器外科	(交代) 川角佑太	(交代) 森正一	(交代)	(交代)	森正一	
小児外科	村瀬成彦	村瀬成彦	—	村瀬成彦	—	
禁煙外来	毎週火曜日(12時30分~14時30分) 舟橋龍秀					
形成外科	須藤知里 菱田雅之	—	須藤知里	—	菱田雅之	
整形外科	新患	大高圭司	(交代)	伊藤史宙	藤田友樹	上見亮太
	再診	井上英則	山本英樹	八木秀樹	洪淑貴	井上英則
		洪淑貴	石川尚人	上見亮太	山本英樹	石川尚人
		伊藤史宙	大塚純子	祖父江康司	大塚純子	八木秀樹
—	藤田友樹	—	大高圭司	祖父江康司		

診療科目	月	火	水	木	金	
脳神経外科	服部健一	和田健太郎	波多野寿	—	久保裕昭	
	(交代)	—	—	(交代)	藤谷繁	
	—	—	伊藤里紗	—	—	
皮膚科	吉川真人	吉川真人	犬飼実紗子	犬飼実紗子	犬飼実紗子	
	石原麻衣子	石原麻衣子	吉川真人	石原麻衣子	吉川真人	
	大見修也	大見修也	大見修也	大見修也	石原麻衣子	
泌尿器科	(交代)	平林裕樹	加藤隆	井上聡	佐井裕紀	
	鈴木省治	—	佐井裕紀	加藤隆	平林裕樹 井上聡	
腎移植外来	—	PM平林裕樹	—	—	—	
女性泌尿器科	加藤久美子	加藤久美子	—	加藤久美子 (新患)	—	
	—	鈴木省治	PM加藤久美子	—	—	
●新患は(木)にご来院ください。						
産婦人科	新患	安藤智子	廣村勝彦	伊藤由美子	齋藤愛	水野公雄
	再診	AM田中梨紗子 PM荒木甫	AM正橋佳樹 PM水野公雄	坂堂美央子	廣村勝彦	AM養田章 PM白倉知香
	生殖内分泌・内視鏡	齋藤愛	安藤智子	—	安藤智子	齋藤愛
	化療外来	—	(交代)	(交代)	(交代)	—
	妊婦診	AM福原伸彦 PM寺次直浩	AM伊藤由美子 PM鈴木美帆	AM中村拓斗 PM長岡明日香	手塚敦子	AM黒柳雅文 PM寺次直浩
	—	—	PM長岡明日香	—	—	
	ハイリスク妊娠外来	AM津田弘之	—	—	—	AM津田弘之
	妊娠初診外来	PM津田弘之	—	—	—	PM手塚敦子
	パースセンター	—	福原伸彦	—	鈴木美帆	—
	助産師	助産師	助産師	助産師	助産師	助産師
眼科	佐藤英津子	—	佐藤英津子	(交代)	野坂光司	
	(交代)	—	(交代)	(交代)	(交代)	
耳鼻咽喉科	新患	寺田聡広	鈴木淳志	柘植勇人 小澤亮太	村上優美子 小澤亮太	伊藤潤平 小澤亮太
	再診	柘植勇人	寺田聡広	寺田聡広	柘植勇人	鈴木淳志
村上優美子 / 小澤亮太 (交代)						
リハビリテーション科	八木秀樹 大塚純子	洪淑貴	石川尚人	井上英則	山本英樹	
放射線科	山田哲也	山田哲也	山田哲也	山田哲也	山田哲也	
	岡田徹	岡田徹	岡田徹	岡田徹	岡田徹	
	●詳細は受付にお問い合わせください。					
歯科口腔外科	新患	大岩伊知郎	佐藤春樹	(交代)	大岩伊知郎	(交代)
	再診	佐藤春樹	大岩伊知郎	—	—	—
		長縄憲亮	長縄憲亮	—	佐藤春樹	—
上田整	早川泰平	—	早川泰平	—		
緩和ケア科	緩和ケア外来	水曜日 PM河合奈津子				

外来診療のご案内

- ◆初診 …………… 総合案内で「診療申込票」に必要事項をご記入の上、保険証・(初めて受診される方) 紹介状・各種医療証書を添えて、新患受付にお出ください。
- ◆診療受付時間 …………… 午前8時20分~午前11時
(緊急および予約されている方はこの限りではありません)
土曜・日曜・祝日 年末年始(12月29日~1月3日)
- ◆休日 …………… 日本赤十字社創立記念日(5月1日)
- ◆セカンドオピニオン …………… 詳しくは患者相談室までお問い合わせください。
- ◆専門外来 …………… 患者相談室 電話052-485-3503(直通)

お問い合わせ先 **052-481-5111** (代表)

休診情報はホームページでご覧いただけます。

<https://www.nagoya-1st.jrc.or.jp/>

TOP » 診療科部門 » 休診情報



日本赤十字社

日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第一病院

〒453-8511 名古屋市中村区道下町3丁目35番地
TEL.052-481-5111(代表) FAX.052-482-7733